

七劇団青年座第136回公演

作＝マキノゾミ◎演出＝宮田慶子



今井和子
【寺田りん】



家中 宏
【寺田秀二】



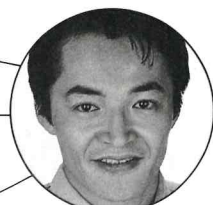
川先宏美
【寺田秋子】



大家仁志
【沢木 豊】



山野史人
【寺田冬彦】



横堀悦夫
【寺田廉一】



那須佐代子
【寺田早月】




後藤 健
【大河内正親】

昭和九年十二月二十四日、月曜日。
東京本郷区曙町にある理学博士寺田冬彦邸。
主、冬彦がしかつめらしい顔で煙草をくわえている。
別に怒っているわけではない。普段のことである。
まわりには妻りんをはじめ、

フエヒコ

個性豊かな家族が太陽系宇宙のように取り囲む。
そこに突然彗星の如く事件が飛び込んできた！
小春日和に雲が差し、雨からやがてしんと降る雪に変わる。
招き猫が見守る中、
寺田家の喜怒哀楽の一週間が過ぎてゆく。



寺田冬彦のモデルと
おぼしき寺田寅彦に
ついて

物理学者で、夏目漱石門下の
随筆家。煙草と甘味をこよな
く愛した寺田寅彦は茶碗の湯
やビール泡、猫の宙返りか
ら生物学や地球物理学へと発
想する独自の視点で寺田物理
学を確立。50年早く生まれて
しまった」と言われ、今再評
価されている。(一八七八年～
一九三五年)

大河内正親のモデルと
おぼしき大河内正敏に
ついて

工学者で実業家。理化学研究
所三代目所長。主任研究員制
度という今までにない新しい
システムと大胆な経営手腕に
より、理研の発展と理研コン
ツェルン60数社の創立、組織
化に尽力。(一八七八年～一九
五二年)

理化学研究所について

一九一七年、小資源国日本の
将来を憂いた高峰譲吉らの尽
力により財団法人理化学研究
所として設立。研究のテーマ、
進め方はいつさい研究者自身
に委ねられ「科学者たちの自
由な楽園」と称された。仁科
芳雄、鈴木梅太郎、朝永振一
郎、そして寺田寅彦らを輩出。

5月22日(月)午後6時30分開演 福井市文化会館

料金＝一般／S席4,000円 A席3,500円 学生／1,000円

主催＝福井芸術・文化フォーラム〈福井市文化会館内〉(0776)23-6905

協賛＝セーレン株式会社

後援＝福井市教育委員会／(財)福井県文化振興事業団／福井県演劇連盟

福井新聞社／NHK福井放送局／FBC福井放送／福井テレビ

プレイガイド＝ピア／ベル／パリオ／紀伊國屋書店福井店(Loft5階)／福井・芸術文化フォーラム